

ブルンジ月報（２０２０年１２月）

主な出来事

1. 内政・外政

- 4日、国連安全保障理事会がブルンジ情勢に係る安保理議長声明を発出
- 8日、ブルンジとEUが政治対話の再開に合意
- 18日、ブヨヤ元大統領が逝去
- 23日、バニャムレンゲ難民のモニュメントが冒涇される
- 30日、ブルンジ政府が新航空会社設立計画を発表

2. 開発援助

- 17日、ブルンジと日本が無償資金協力「食料援助」に署名
- 18日、アフリカ開発銀行によるギテガーニャングングーンゴジ道路開発及び舗装プロジェクトが完工予定
- 23日、アフリカ開発銀行による道路開発プロジェクトで域内貿易が活性化

1. 内政・外政

（１）国連安全保障理事会がブルンジ情勢に係る安保理議長声明を発出（４日）（RNA）

国連安保理が、ブルンジの治安情勢が改善されているとする議長声明を発出した。不処罰対策や男女平等の観点から進展があったことを評価する一方で、法の支配とう取り組むべき課題があるとしつつ、人権侵害等での懸念すべき状況が続いているという点にも言及した。

（２）ブルンジとEUが政治対話の再開に合意（８日）（BBC）

ブルンジ大統領府は、ンダイシミエ大統領が駐ブルンジEU代表及び欧州各国大使と７日に面談し、政治対話の再開に合意したと発表した。２０１５年５月のクーデター未遂の際、ブルンジ国内の不安定化を支援しているとしてブルンジがEUを非難したのに対し、EUは人権侵害への懸念を理由にブルンジへの財政支援を停止していた。

（３）ブヨヤ元大統領が逝去（１８日）（RNA）

１８日未明、ブヨヤ（Pierre BUYOYA）元大統領が逝去した。複数のメディアは、同氏の死因を新型コロナウイルスと報じている。ブヨヤ氏は、１ヶ月前に、AUマリ・サヘル地域上級代表を辞職していた。また、同氏は、ブルンジ司法当局によりその後任のンダダイエ（Melchoir NDADAYE）大統領を暗殺した罪に問われていた。

（４）バニャムレンゲ難民のモニュメントが冒涇される（２３日）（RNA）

2004年にブルンジ国内で虐殺された166人のバニャムレンゲ難民（ツチ族）を追悼するために建てられたモニュメントが、与党 CNDD-FDD の青年集団「インボネラクレ」によって冒涇された。目撃者によれば、10日、同モニュメントのあるガツンバの長と「インボネラクレ」の若者たちによりペンキを塗りつけられたほか、モニュメントを支える柱と花輪が荒らされ投げ捨てられるなどした。

（５）ブルンジ政府が新航空会社設立計画を発表（３０日）（RNA）

ブルンジ政府が、新航空会社「ブルンジ航空（Burundi Airlines）」を設立する計画を発表した。来年（2021）年に運行開始予定。Burundi Airlines の前身の Air Burundi は13年前に倒産している。新航空会社の設立は、Air Burundi とブルンジ倉庫管理・機体整備会社 SOBUGEA の統合によるもの。ブルンジ政府が92%、ブルンジ保険会社 SOCABU が4%、ベルギーのブラッセル航空が4%を出資する。

2. 開発援助

（１）ブルンジと日本が無償資金協力「食料援助」に署名（１７日）

シンジロ（Albert SHINGIRO）外務・開発協力大臣と今井大使が、3.5億円の食料援助に関する署名を行った。本支援により、3,700トンの米が供与される。

（２）アフリカ開発銀行によるギテガーニャングングーンゴジ道路開発及び舗装プロジェクトが完工予定（３日）（RNA）

アフリカ開発銀行が3日に発表した報告書によれば、ギテガーニャングングーンゴジ道路開発及び舗装プロジェクト（総額4,670万米ドル）が年内に完工する。同プロジェクトでは、50kmのアスファルト舗装、8.4kmの道路整備、26.7kmの舗装路整備、30.6kmの未舗装路の修復等を行っており、46万5,000人の住民に裨益する。

（３）アフリカ開発銀行による道路開発プロジェクトで域内貿易が活性化（23日）（RNA）

アフリカ開発銀行が3日に発表した報告書によれば、2012年から2020年に、道路開発（ブルンジのムギナーマバンダーニャンザラク道路及びルワンダンのルバブーギシザ道路）及び南北回廊の交通活性化プロジェクトの第3フェーズ（3,318万米ドル）により、ブルンジ・ルワンダ・タンザニア間の貿易が活性化された。東アフリカ共同体（EAC）の2020年の貿易額は6.5億ドルで、2011年の5億米ドルから30%増加した。同プロジェクトでは、幹線道路45kmのアスファルト舗装等を行っている。

（了）